

97 立命館大学 産業社会学部 メディア社会学科合格 / 36 回生 2017 年(平成 28 年度)卒

「学習の質×学習の量×やる気＝学力 UP！」

この方程式は自分が中学時代に教わったものです。自分はこの方程式を常に意識して勉強してきました。この方程式で肝心な所はかけ算になっている所です。つまり、どれだけやる気があっても長時間勉強したとしても、質が0なら学力は上がりません。逆もしかり、どれだけ短い時間であってもやる気がとてもあり、質の良い勉強をしていたら学力向上はあり得るということです。

3年生に学年が上がり、受験生になったといえ、4月や5月は部活がある人が多いです。そんな時こそやる気を出し、短時間でも集中し、勉強してください。どれだけ疲れていても「勉強をしない。」という選択をしないでください。ほんの少しでもいいので、やる気を出して勉強してください。「塵も積もれば山となる。」小さな積み重ねは大事です。部活が終わったらいよいよ本格的に受験生です。夏休みが本当に大事です。確固たる意思と目標をもって夏を突っ切りましょう。夏休みを突っ切ることが出来れば自分に自信と実力が付きます。実際、僕は夏前と比べて英語の偏差値が10上がりました。諦めないで頑張りましょう！

最後に、受験勉強を一年間続けることが出来るかどうか、不安な人ばかりだと思いますが、大丈夫です！気がついたら受験なんて終わっています。今はただ前だけを見て頑張ってください！応援しています。

98 同志社大学 グローバル・コミュ学部 グローバル・コミュ学科(中国語コース)合格 /

36 回生 2017 年(平成 28 年度)卒

私が受験勉強を始めたのは3年の6月頃です。部活を引退し、もういい加減やろうと決めました。その日からスマホを触らないようにしていました。一学期に受けた模試はE判定ばかりで、危機感からとにかく必死で勉強しました。先延ばしにしてしまったら後がないので、勉強したことはその日のうちに理解し、覚えようと努力しました。具体的には復習の回数を増やすことです。復習といっても、ノートを開いたりせず、隙間時間に頭のなかで「さっき覚えた単語は何だっけ？」と考えるだけです。何も見ない状態で思い出すのは意外と難しく、頭を使います。しかし、それを繰り返すとかなり覚えられ、何も見ずに思い出すことに慣れておくと、テスト中にも思い出しやすくなります。そんな感じで勉強を続けていると、8月の模試で成績がグンと伸びました。

受験勉強ををはじめてからは模試を受ける態度も変えました。入試本番でいつも通りの力を発揮するために、ルーティンのようなものを決め、一回一回本気で受けました。具体的には、カバンの中に入れていく教材を決めて、お昼ごはんも飲み物も毎回同じ物を同じコンビニで買い、服装は制服で受けに行きました。そのおかげもあってか、第一志望の入試本番でも落ち着いて受験することができました。

模試の成績は伸びたものの、志望大学の過去問題は解いてもなかなか点数が取れず、焦りや不安な気持ちから勉強がなかなか手につかない時期もありました。自分には合格は無理だと何度も思いましたが、先生方や友達が励ましてくれたおかげでもう少し頑張ろうという気持ちをもつことができました。そして合格した時は、あきらめずに最後まで粘り続けて良かったと思いました。無理だと思っていたことでも、なんとか粘れば意外と無理じゃないと思いました。

受験生の皆さん。自分で限界を決めたりせずに、行きたい大学に向かって最後まで頑張ってください。応援しています。

99 滋賀大学 経済学部 経済学科合格 / 36 回生 2017 年(平成 28 年度)卒

自分の1年間を振り返ってみると、受験勉強で大切なことはまず出された課題や予習復習、日々の

小テスト、定期考査をしっかりと取り組むことだと思いました。受験生は配布されるプリントの量がとてつもなく多いので、一旦ため込んでしまうと処理するのがかなり大変です。毎日プリントなどは必ず毎日コツコツ取り組むようにした方が良いです。また、受験生になると定期考査より模試の勉強を優先して定期考査の勉強をあまりしなくなる人が多いですが、それはしない方が良いと思います。定期考査に向けての勉強が自然と模試の勉強に繋がっていきます。私は1、2年生の頃は数学が嫌いで定期考査では追考査になったこともありますし、進研模試では全く点数がありませんでした。しかし、3年生からは苦手科目をなくそうと思い、数学の予習、小テストの勉強、定期考査をしっかりと取り組み、定期考査では満点を取ることもできましたし、模試でも悲惨な結果になることはなくなりました。その結果、センター試験でも数学で7割とることができました。得意科目を伸ばすよりも、苦手科目を克服の方が点数を伸ばすことができると実感しました。皆さんも苦手科目にはぜひとも早めに取りかかってみてください。

また、点数が伸びる時期は人それぞれで、早い人は夏休みぐらいから模試で結果を出せる人もいますが、私の場合は、夏にほんの少し伸びただけでそれからの模試ではほとんど同じ結果でした。まわりの人たちの点数を聞いて焦ったり、落ち込んだりしました。でも先生方は、12月からのセンター対策補習で絶対伸びるとおっしゃっていたので、その言葉を信じて諦めずに勉強しました。センター対策補習では復習がとても大事です。最初は復習だけでも大変に感じますが、単語などは覚えていないものだけ復習すればよくなるので段々慣れると思います。ここで復習をさぼってしまうと点数は伸びないと思います。補習は同じことの繰り返しなので面倒に感じたこともありますが、とても緊張したセンター試験本番も、練習を重ねたおかげでその緊張を乗り越えることができたと思います。また、補習を通して、ミスを減らす方法や自分に合った時間配分を身につけ、更には苦手な分野を見つけ本番までに解消しておくことに集中しました。センター試験は特に国語と英語の解く順番、時間配分によって点数に大きく影響がでます。補習で色々な方法を試して、本番にベストが出せるようにしてください。

3年生は忙しいので時間はあっという間に過ぎてしまいます。こんなんでいいのかなあと悩むこともあると思いますが、自分のペースで無理せずコツコツと勉強すれば、結果は絶対についてきます。一気に焦って勉強しても結果はなかなか伸びないと思います。毎日の積み重ねを大切に。1年後に後悔しない生活を送ってください。

100 愛知教育大学 中等教育教員養成課程 社会専攻合格 / 36 回生 2017 年(平成 28 年度)卒

私が受験生として過ごした一年間を振り返り、考えたことをお話しします。

私は3年生になってから、第一志望をそれまでよりも高いランクの大学に変えました。その結果増えた必要な勉強をこなしていくうちに、少しずつ成績が伸びました。しかし、センター試験本番で失敗し、結局前期に受けた第一志望の大学には受かりませんでした。それでも後期では元々志望していた大学に合格することができました。

まず最初は、“目標を高くもつこと”が大切だと思います。(大学受験に限らず)“今の自分よりも高いレベル”の目標が常にあると、自然と「頑張らなきゃ」という気持ちになれると思います。

次に、“諦めないこと”が大切です。私はこれが一番重要なことだと思います。入試を受ければ、どんなに低くても“合格する可能性”が存在します。でも、試験を受けること自体をやめてしまったら、その大学に受かる確率は0%です。私自身、センター後にD判定で、受験する大学を変えるべきかどうか悩みました。先生方にも相談した結果、「受けなかったことを後悔したくない」と思って、挑戦することを決めました。結果はダメでしたが、試験が終わった後、「やりきったなあ」と思えたのは本当によかったです。また、周りの友達がどんどん受験が終わっていくなかでも、最後まで粘って勉強したことが、後期での合格につながったと思います。皆さんも、どうか諦めることなく、“受験生”をやりにってください。

それから、勉強するうちに、わからないことが多すぎて不安になるかもしれませんが、南高は学校の補習などで十分に受験勉強ができます。自分で自分に合った参考書を買集めるのもいいですが、まずは学校で買ったもの（＝先生のおすすめ！）を繰り返し解いて完璧にするのがいいと思います。そして、問題は、解いたらしっかり復習することが大事です。方法は人それぞれだと思いますが、私はずっとやっていた方法を紹介します。

私は、不正解だった英単語や世界史の語句などをすべて付箋に書き、制服のポケットに入るサイズのノートに貼って持ち歩き、空き時間に見直すようにしていました。試験当日にも、その付箋を集めたノートを持っていき、自分の弱点だけをさっと復習できたので便利だと思います。

最後に、“受験は団体戦”です。私が受験を乗り切れたのは、一緒に励ましあって頑張ってきた友達、最後まで熱心に指導してくださった先生方のおかげです。心が折れそうになったときは周りの人を頼ってみてください。“受験生”を楽しみながら、頑張ってください。皆さんが志望校に合格できることを願っています。

101 三重大大学 教育学部 学校教育教員養成課程 国語教育コース 中等教育選修合格 /

36回生 2017年(平成28年度)卒

勉強法は十人十色です。勉強法は自分で確立するものですから、あくまで参考として私が受験勉強中に意識していたことをお話ししたいと思います。

一つ目は、1週間ごとに細かく学習計画を立て、1週間後にその週のことを振り返って反省することです。その際のポイントは、ある程度余裕をもって学習計画を立てることと、反省の際に自分の弱点だけでなく、強みになる点も必ず確認することです。受験勉強は、なかなかゴールの見えない戦いです。嫌になることもたくさんあります。その中で、自分の計画をやり遂げることは自信に繋がり、何をすればいいのかが定まらず、ただ焦って時間だけが過ぎることもなくなります。また、弱点だけでなく強みになる点も確認することで、どこに比重をおいて勉強すべきかの判断にも無駄がなくなります。

二つ目は、補習に積極的に参加し、とにかく学校を活用することです。私は1年生の頃から早朝補習に参加し、3年生になってからは自分が受けられる補習はすべてに参加しました。土日や年末年始の学校開放日にも、よほどの事情がない限りほとんど登校していました。学校に行けば、先生は近くにいるし周りの子も真剣に勉強しているので、やる気がなくても、集中できなくても、勉強せざるを得ません。南高の先生方は熱心に補習の予定を組んでくださるので、補習を活用すれば塾などは必要ありません。言い方は悪いかかもしれませんが、わざわざ塾に高いお金を払って勉強しなくても、学校に行けば基礎から応用までレベルに応じて様々な講座をいくらでも受けることができます。補習を活用しない手はないです。

三つ目は、スマホを封印することです。私の場合は電源を落とし、袋に入れ、母に私がわからない所に隠してもらっていました。よほど大切な連絡があるときは母に言って出してもらっていましたが、用が済めばまたすぐに隠してもらっていました。どれだけ意志の強い人でも、手が届く範囲にあればスマホに触ります。無意識に辛い受験勉強から逃げようとして、ついスマホに手を伸ばしてしまいます。でも、スマホを触っている間はよくても、我に返ったときの罪悪感が本当にしんどいので、スマホは封印することをお勧めします。受験生はそこまで切羽詰まって連絡をとらなければいけないことはほぼないです。

以上の三つが、私が特に意識していたことです。私は受験生だった1年間を少し後悔しています。充実感が無いわけではありませんが、もっとできた、という思いがぬぐえないからです。センター試験で失敗し、第一志望校には挑戦すらできませんでした。悔しい、もっと頑張っていたら、という気持ちで一杯です。たぶん、この気持ちは生涯消えないと思います。私は皆さんにこんな思いをして欲しくはありません。1年間自分に厳しく有り続けることはしんどいし、泣きたくもなります。でも、

1年間努力した、という経験はこれからの人生を支える大きな土台になると思います。これから受験に挑まれる皆さんが、どんな結果になるにせよ、最後に自信をもって「頑張った。」と言えるよう、心より応援しています。

102 公立鳥取環境大学 経営学部 経営学科合格 / 36 回生 2017 年(平成 28 年度)卒

この1年間は長いようで、あっという間に過ぎてしまいました。私は何をやるにも一歩遅れるタイプなので、慌ててやることがよくありました。全部挙げるとキリがないので、3つ挙げようと思います。

1つ目は、受験勉強の開始が遅れたことです。いま思えば、授業＝受験勉強だと思います。授業はちゃんと聞くに限ると思います。私は2年生の頃までは授業を聞くのが大変でよく居眠りをしていました。なんとか起きていてもボーッとしていることが多々ありました。もちろん内容は頭に入っていないので、まわりの人たちとの知識の量の差は広がっていきました。こればかりは自分でやる気を出さないとどうにもならないことでしたが、そのきっかけとして、私はやる気のある友達を見て刺激を受けながら、根性で乗り切りました。

2つ目は、赤本を買うのが遅れたことです。赤本は高いので、全部の学校の分を買うのは無理だったので、友達が解き終わった赤本を借りることにしました。ですが、結局受験日の1週間前に古本屋で200円で売られているのを発見して、購入しました。このように準備不足で挑むより、万全の対策を立てて挑んだ方が、良い結果が出るのは間違いありません。受験でケチるとろくなことがないので、気をつけてください。

3つ目は、先生に質問するのが一番良い解決策だということに気づくのが遅れたことです。わからんものはわからん、と決めつけて夏にほっぽりだした問題を、冬に先生に解説してもらったら、案外すんなりと理解できました。それからはほぼ毎日業後に残って、わからない問題の質問をしていました。面識のない先生とも関わることができ、なんだか新鮮で楽しかったです。

最後に、国公立を受験する人は、卒業式後も学校に来て補習を受けなければなりません。多くの人が受験を終えてパーッと遊んでいるので、私自身、それを苦と感じました。ですが、少人数での補習なので先生も一人一人をより気にかけてくださり、一気に距離が縮まりました。そのおかげで、苦しい受験勉強でさえとても良い思い出です。

皆さんにとってこれからの受験生活は苦勞も多いでしょうが、最後には良い思い出となるように頑張ってください。

103 名古屋大学 文学部合格 / 36 回生 2017 年(平成 28 年度)卒

私が受験勉強をする上で大切だと思ったことを書きたいと思います。

1つ目は授業や補習を大事にすることです。これはよく言われることですが、予習復習をして授業をちゃんと聞くことはやっぱり大切です。これはいちばん簡単にできる受験勉強だと思います。授業中寝ていたり、内職をしている人は、今すぐ改善しましょう。復習は授業後にノートを見返すだけでも効果があると思います。

2つ目は苦手教科の克服をすることです。苦手だからといって最初から捨てることはしないでください。苦手教科の問題が簡単になり、点数が取れると思っていた教科がとても難しくなることもあるからです。苦手な教科も基本問題だけでもいいので解けるようにしておくといいと思います。

3つ目は体調管理をすること、睡眠をしっかりとることです。睡眠時間を削って勉強しても、そのせいで授業中寝てしまったり、体調を崩したりしたら意味がないと思います。無理せずに最後まで続けられるような生活リズムを身につけてください。

4つ目は諦めないことです。模試の判定が悪かったり、点数がなかなか伸びなかったりするかもし

れませんが諦めずに勉強を続けてください。私はセンタープレテストでE判定でしたが、センター試験ではセンタープレテストより150点以上いい点数をとることができました。これは、判定が悪くてもセンター試験までは目標を下げないと硬心に決めて、冬休みの補習でセンター対策をたくさんしたからだと思います。このようなことがあるので、最後まで諦めないでください。

ここまで書いてきましたが実は私は4つ目以外は、あまりできませんでした。結果的に第一志望に受かることはできましたが、もっとちゃんと受験勉強をすればよかったと後悔しています。ですからみなさんは後悔のない、勉強しまくったと自信をもって言える1年にしてください。応援しています。

104 鳥取大学 工学部 機械物理系学科合格 / 36 回生 2017 年(平成 28 年度)卒

僕は今も先生方にとっても感謝しています。授業の愚痴を聞いてもらったり、進路の相談にのってもらったりと励ましてもらいました。これが無かったらきっと心が折れていました。南高の先生は皆暖かいです。苦しくなったら先生と会話すると楽になりますよ。保健室の先生にちょっとしたカウンセリングをしてもらうのもありかもしれません。

赤本は買わなくていいです。全部進路室にあります。コピーしましょう。だいぶ安く抑えられるはずです。1年分ごとに分ければ持ち運びもとても楽になります。

さて勉強面ですが、どの科目もまず第一に基礎が無いといずれ崩れます。追いつけなくなります。ですからとにかく基礎の定着を最優先してください。基礎ありきの応用です。応用力は補習にきちんと参加すれば多少なりとも身につきます。さらに細かくいうと、英語はとにかく単語です。単語を知っていないと始まりません。1つでも多く覚えておいて損はありません。その単語の意味がわかるかわからないかで長文の理解度が大きく変わります。センター試験の長文問題は各設問6点です。自分は単語をあまり覚えていなくて失敗しました。覚えてればとても簡単に解けるものもいくつか解けませんでした。それで20点以上失いました。文法も熟語も必要ですが、まずは単語です。

数学は、授業の入試問題演習で、問題のレベルに慣れるまで難しくても手も足も出ませんでした。なのに大量の数の予習が求められます。解けないと少し怒られます。正直めちゃくちゃ腹が立ちました。自分はそれで数学をサボるようになりました。復習を全くしなくなりました。でもこれが失敗でした。その日に授業でやった問題を、たとえ1つだけでもいいから食らいついて復習してください(友達と協力して板書を写すのを分担すると先生の説明多く聞けます)。1日たった1問でも、1年続ければ365問です。1問を復習するのに15分あれば十分です。教科書を見て公式を確認したり、チャートで類題を見てみたりするのです。どうですか?簡単に思えてきませんか?

物理は、「少しでも深く理解をする、感覚と一致させる、現象を頭の中でムービー再生できるようにする」を心がけてください。現象を頭の中でムービー再生できるようになると、問題を解くときにとっても楽になります。ムービー再生できるようになるまでは、YouTubeなどで実験の動画を探して見てみるといいと思います。

最後に、問題が分からなかったら先生または友達に聞きましょう。友達には多少時間的な気遣いをしたほうがいいですが、先生に対しては遠慮なしでガンガン聞きに行きましょう。忙しそうでも質問の予約をとりましょう。必死で食らいついてください。

余談ですが、受験の時何が一番心を落ち着かせられるか、それは「自分がどれだけ頑張ったかという事実」と言われます。自分はそこそこしか頑張れなかったのが、多少心が落ち着かないまま試験を受けました。受験時の心のもちようは少なからず点数に絡んできます。どれだけ頑張ったかによって変わってきます。そして、今の頑張りは大学入学後にもつながると思いますので、未来の自分への投資だと思って、これから頑張ってください。

僕は受験を通して、「目標」を立てることの大切さを知りました。まずは、どこの大学に行きたいのかという大きな「目標」、次にその大きな「目標」を達成するためにセンター試験や2次試験で何点とるのかという「目標」、そのために模試ごと何点取ればよいのかという「目標」、それを達成するために、毎月何をすればよいのかという「目標」を立て、それを達成するために毎週何をするのかという「目標」を立て、それを達成するために、毎日の「目標」を立てることが大切だと思いました。僕は、日曜日にまとめて1週間分の「目標」を立てていました。月曜日から土曜日までの「目標」を立て、日曜日は月曜日から土曜日までに出来なかったことをするようにしていました。1週間の「目標」を立てる時は、決して無理のない「目標」を立てることが重要だと思います。

一日の「目標」を達成出来たときはとても大きな達成感を得られますが、達成出来ないときはとても焦ります。ですから「目標」を立てる時は決して無理をしないことが大事だと思います。皆さんも小さな「目標」を達成していき、大きな「目標」を達成できるように頑張ってください！

最後に、僕は私立の受験を失敗しました。そのときはとても落ち込みました。そのときに励ましてくれたのが、1年間苦楽を共にした仲間たちでした。「受験は団体戦」とよく言いますが、そのときほどその言葉を強く実感したことはありません。

また、一宮南高校の先生方は、とても優しい方ばかりです。どんどん質問にいき、自分の分からないところをつぶしていきましょう！先生を信じれば、結果はついてくると思います！

僕が受験で特に大事だと思うことは「切り替え」と「継続」だと思います。多くの人は部活動に所属していて、部活が終わるまではなかなか勉強に専念できないと思います。自分もその一人でしたから、大事なことは部活が終わった時、どれだけ早く気持ちを受験に切り替えられるかだと強く感じます。これができるかできないかで結果が本当に大きく変わってきます。初めは部活をしていた時間に学校に残って勉強するだけでもいいので、1学期の間に勉強する習慣をつけてください。そうすれば、夏休みも失敗することはないと思います。逆に、切り替えるタイミングを一度逃すとそのまますぐに夏休みに入ってしまう、夏休みもおそらく失敗するでしょう。また、言いづらいことですが、夏休みを失敗して夏に決めていた第一志望に受かった人は1人もいなかったと思います。ですから、切り替えをしっかりと夏休みには基礎を徹底してやってください。

また、1人で勉強を何日も続けるのは本当に難しいです。そんな時は図書館や学校を積極的に利用してください。昼食の時に友達と話すなど、いい息抜きになります。自分は意思が弱く1人ではすぐに勉強をやめてしまうので、学校が終わるとほぼ毎日図書館に行って閉館まで勉強していました。受験では毎日続けることが重要で、成績を上げる近道だと思います。自分が毎日続けることができる場所や方法を見つけてください。また、現役生は1週間のうち6日ほどは学校での授業内容も予習を前提とした演習授業が多くなります。予習をしっかりとこないと本当に座っているだけの1時間になってしまいます。ですから予習は絶対にした方がいいと思います。先生方も考えて問題を選んでくださっているので、授業をしっかりとこなしていれば成績は上がっていきます。

この1年間は模試の結果などで気分の浮き沈みの激しい1年になると思いますが、本番は全受験生を対象としている模試とは全然違い、各大学に応じた難易度の問題が出題されますので、模試の結果とは全く違うものが出ると思います。あまり模試の結果で落ち込みすぎないようにしてください。僕は、最後の記述模試の志望校の判定はEでしたが、合格することができました。模試にとらわれ過ぎず毎日コツコツと継続して勉強していれば、必ず結果はついてくると思います。今まではテスト週間しか勉強してない人がほとんどだと思いますが、これからの頑張り次第で結果は大きく変わってきますので1年間頑張ってください。南高生全員の第一志望合格を応援しています。

107 岐阜大学 応用生物科学部 生産環境科学課程合格 / 36回生 2017年(平成28年度)卒

僕が受験を意識し始めた時期は2年生の終わりごろでした。それより以前は、一定時間は必ず勉強していましたが、スマホやゲームをする時間がほとんどでした。このままじゃ受験が危ないと思ったきっかけは1月のセンター試験当日に河合塾で実施される『センターチャレンジ』の時でした。先輩が受けたセンター試験を模試という形で受けましたが、結果は惨憺たるものでした。前から苦手としていた英語が30点(200点満点)しか取れず、ここから僕は本気で勉強すると決意しました。

2年生の春休みと3年生の1学期は、まず自分の学力のレベルを把握し、学習計画を立てることを始めました。自分は得意科目と苦手科目はわかっていたのですが、得意科目の苦手分野や苦手科目の得意分野はわかっていなかったのので、勉強しながらそれを探しました。その結果、受験生のふんばり所である夏休みの計画を速やかに決めることができ、効率良く勉強することができました。特に苦手科目については、得意なのかそうでないのかを把握したことで自分なりの勉強方法を考え、得意な所から徐々に範囲を広げて勉強しました。苦手意識があった英語が少しずつわかるようになって、一般に苦しいと言われる夏休みは比較的楽しくできました。この勢いで着実に学力を伸ばしていき、秋の最後の模試では第一志望大学にA判定がつかしました。この時自分は頑張れると思いき、さらに上のランクの大学を目指すことに決めました。これは春に考えていた計画外のことでした。その時点で学力判定は大体Dくらいだったので、冬は夏のように楽しく勉強する余裕なんてありませんでした。時間に余裕がなく苦しい時期だっただけに、僕は何度もやっぱり前の志望校でいいんじゃないかと諦めかけていました。このような気持ちになるのは遅かれ早かれ誰にでもあると思います。そんな時頼りになったのは先生でした。僕はある先生に自分の成長した所を褒められたことが凄く励みになりました。褒められることに素直に喜べるくらい自分は勉強したのだということに気づき、ここで諦めるわけにはいかないと強く思い直し勉強を続けました。そしてセンター試験当日、自分のもてる力を振り絞り、自己ベストを出せました。苦手だった英語は目標である7割まで届きました。センター試験が終わった後も気を抜かず、二次試験まで勉強し何とか合格することができました。

こうして受験生が終わった今、1年を振り返ってみて改めて思うのは、受験はチーム戦だということです。僕が勉強を頑張れたのは熱い志望ももちろんですが、支えてくれた先生方、そしてともに過ごした仲間たちの存在があったからこそだと思います。受験生のみなさん、自分に自信をもち、友と励まし合い、先生について行ってください。色んな出来事があると思いますが、きっと大丈夫!応援しています、頑張ってください。

108 富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科合格 / 36回生 2017年(平成28年度)卒

皆さんは、家で勉強できていますか?家で学校の授業中並に集中できている人は少ないのではないかと思います。ゲームや動画、TwitterにLINEと皆さんの周りは様々な誘惑で溢れていますよね。僕も、家ではアニメを観たり、ラジオを聴いたり勉強に集中できていませんでした。そんな自分ですが国公立大学合格に向けてのアドバイスを伝えたいと思います。これらはすべての受験生、特に家で勉強できない人にとって大切だと思います。

まず、第一に学校(朝学、補習、ドリカムを含む)を休まないことです。大事なことは、休みグセをつけないようにするという点です。3年生になって補習が始まり、辛くなって休む人を僕はよく見ましたが、そういう人はそれを機によく学校を休むようになっていました。しかも、そういう人の最終的な進路をみると、もっと上にいけたんじゃないかなあという人が多かったように思います(あくまで個人的な見解ですが)。学校を休まなければ、必ずいい結果を得られるとは言えませんが、休まないことで受験に向けての自信が生まれ、忍耐力もつきます。是非とも、残りの1年間は頑張って学校に通い続けて欲しいと思います。

次に僕が心がけたことは、家でやれないならiビルへ行けということです。自分は家で勉強できなかったもので、家で勉強をやらないかわりにほぼ毎日のようにiビルに通っていました。とはいっても自分は基本的に21時まで集中して勉強して、それでもその日のうちにやらなければならないことが終わっていなければ、家に帰ってから終わらせるようにしていました。特に自分は超短期決戦型で体力も無かったので、このiビルで集中してやるスタイルが割に合っていて続けやすかったです。

最後に伝えたいのは、先生方からもよく言われているかもしれませんが、受験は団体戦ということです。これは、学年全体で受験への空気を作って、みんなで乗り切ろうという意味だけではないと思います。生徒だけでなく先生方を含めたチームとして受験に立ち向かって行くという意味だと、この受験を終えて感じました。運良くこの学校にはたくさんの素晴らしい先生方がいらっしゃいます（お世辞とかではなく）。分からないことがあれば先生方にじゃんじゃん聞いてください。親身になって答えていただけるとと思います。

皆さんの周りには、たくさんの仲間がいて、頼りになる先生方がいます。何も変に気負う必要はありません。先生の言うことを着実にこなせばいい結果がついてくるとと思います。自分のアドバイス(?)なんて一個人の意見でしかありませんが、みなさんのことを一番分かっているのは、みなさん自身だと思いますので、ぜひとも自分に合ったやり方を見つけて今年1年死ぬ気で頑張ってみてください。

109 名古屋工業大学 工学部 社会工学科 建築・デザイン分野合格 /

36回生 2017年(平成28年度)卒

僕から受験生の皆さんへ、高校生活を通して僕が大切だと感じた受験へのアドバイスや勉強法について伝えたいと思います。

まず、受験についてです。受験で大切なことは「ミスを少なくする」ことだと思います。

受験にミスはつきものです。たとえ「自分はミスしない」と思っていたとしてもミスは出ます。しかし、重要なのはミスを繰り返さないことです。模試などで経験したミスはメモをしておくといいと思います。また、受験生にありがちなミスについて知っておくのもいいと思います。

次に、勉強法についてです。僕が特にオススメしたい勉強法は「理数科目は答えを見るな」です。これは僕の2年生の時の担任の先生がよく言っていた言葉です。理数科目は暗記ではなく、思考力なので、「分からなくても考える」ことをすれば必ず力はつきます。理数科目は答えをすぐに見ずに少し立ち止まって10分考えてみてください。

もう一つオススメしたいのは「周りを頼れ」です。

考えて、考えて、考えても分からなかった時は、周りの先生や友達に質問してください。きっと助けてくれるでしょうし、記憶にも残ると思います。

以上のことが僕にできる精一杯のアドバイスです。僕自身、ミスがとても多く、センター試験ではマークミスで数学の大問を丸々1つ落とすし、「なんでも自分でできる」と思い上がって勉強に苦勞をしました。そんな僕ですが、友達や先生など周りの人に助けられて、なんとか志望していた大学、学部に入ることができました。皆さんもこの一年、とても苦勞すると思います。辛い時も多々あると思います。逃げ出したくなる日もあると思います。でもそこが勝負です。周りはそこで落ちていく。だが君は踏ん張れ。応援しています。

110 名古屋大学 理学部合格 / 36回生 2017年(平成28年度)卒

僕は受験勉強においてはバランスが重要だと思います。担任の先生から3年生の最初の頃からバランスよく勉強するように言われ、そのようにバランスよく勉強してきました。おかげでセンター試験では、自己最高点をとることができました。僕は二次試験でも国語が必要だったので、バランスよく勉強してきたことが役に立ちました。

二次試験に向けては、先生方が個別でいろいろな指導をしてくださいました。皆さんも分からない問題があれば全力で先生方を頼ってください。そうすれば先生方も全力で応えてくれます。また、友達に聞くのもいいことです。教える方も理解は深まります。

僕が辛かった時期は冬休みと、国公立大学前期試験(2月末)の後です。冬休みはひたすらセンター演習があり、点数もあがったり下がったりと安定せずとても辛かったです。センター演習のあとは復習はしっかりやりました。英語は出てきた単語は全て覚え、公民も様々な問題に触れながら出てきたことはとにかく覚えるように努めました。それと並行して、模試の復習も忘れずにやりました。

国公立前期試験が終わって、試験の出来についてあれこれ考えてしまうことも多く、不安になったり気が抜けてしまったりでとても辛かったです。試験が全く出来ず、後から解答を見たところ、数学は一つも完答出来ておらず、物理も全く出来なくて、本当にだめだと思って、とても落ち込んでいました。それでも試験の出来がどうであれ、後期試験まで一生懸命勉強しようと思い直し、前期試験後の補習も全部参加し、家でも勉強していました。そんな中、前期試験の合格通知が届き、喜びと安堵の気持ちで一杯でした。

アドバイスをするとしたら、まず、教材はむやみに買わないことです。学校でもらう教材をやり、模試の復習をしっかりすれば十分です。模試というのはお金を払って「解説書を購入」しているわけですから、模試の復習は何よりも大切なものの一つです。模試が毎週続くこともあるので、復習は先延ばしにせず早め早めにやりましょう。ですが、理系で国公立大学を目指す人は、重要問題集は買った方がいいです。僕が買ったのはそれだけでした。

次に、遅くとも夏休み終わりまでには単語帳とヴィンテージを完璧にすることです。英語は本当に重要です。センター試験でも二次試験でも必要です。英語は毎日なにかしらやるべきです。1日英語をやらないと、取り戻すには1週間かかるとも言われます。

本当にきつい1年間だと思いますが、1年後自分が笑っていられるように本気で勉強してください。周りの仲間たちが頑張っているのでも自分も頑張れる！

111 名古屋大学 理学部合格

早稲田大学 基幹理工学部 学系I合格 / 36回生 2017年(平成28年度)卒

僕は理系なので、理系の人に向けて書こうと思います。

まず、理系の人にとって僕が大切だと思うことが3つあります。1つ目は文系科目を、特に英語を疎かにしないことです。大学入試では基本的に合計点がすべてです。センター試験で理系科目は900点のうち400点しかありません。ということは、文系科目でどれだけとれるかが非常に重要になってくるということです。英語はターゲットとヴィンテージを完璧にすればある程度は得点できるようになるので、夏休みには一通り終わるように毎日やるといいと思います。ですが、覚えたからといってそれ以上やらなくなるとすぐに抜けていってしまいます。僕も実際にこの経験をしました。みなさんはそんなことにならないように毎日コツコツ頑張ってください！

2つ目はなるべく早く行きたい大学を決めること、明確な目標を立てることです。当然ですが、大学によって出題分野・傾向は大きく変わります。これは学校においてある赤本等に載っているので参考にして学習を進めるといいと思います。僕は国公立大学の対策ばかりして私立対策を疎かにした結果、私立本番はとても苦戦しました。対策は本当に大事です。

3つ目は模試の復習です。模試の問題は難しいですが良問が多いです。模試の後ほうまく時間をつかって少しずつでも復習をしてください。化学などでは未習分野が出題されたりもしますが、そのようなところは学習後にもう一度解くことをお勧めします。模試ほどよい参考書はないとよく先生方に言われましたが、まさにそのとおりです。有効活用してください。

次に、日頃の勉強についてですが、分からないことがあったときはなるべく早く先生や友達に聞くようにしてください。友達に聞くのは相手の時間をとってしまうので申し訳ないという人もいますが、

それは少し違うと思います。他人に勉強を教えるのは自分の中で再確認し、知識を定着させることができる絶好の機会です。幸いなことに僕には質問をしてくれる友人が多くいました。自分が数理科目をここまでキープしてこられたのは、その人たちのおかげだと思っています。質問することはお互いによい学習となるので、ためらわず質問するといいと思います。

最後に、授業や補習の予習が忙しくて自分の勉強がなかなか出来ていない人もいるかと思います。僕もその一人でした。今は不安や焦りがあるかもしれませんが、大丈夫です。やるべきことをしっかりとこなしていけば自ずと力はついてきます。目の前のことに全力で取り組んでください！

この1年は本当に大変ですが、あっという間の1年です。後悔しないようにやりきってください。体調管理にも気をつけてください。最後まで諦めず頑張ってください！